

# つっかいぼう通信 第73号

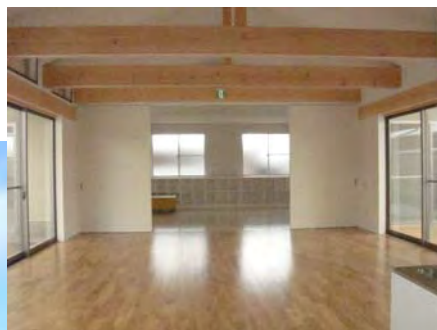
編集／特定非営利活動法人障害者自立センターつっかいぼう

〒502-0843 岐阜市早田東町8丁目4番1 パセール長良1F3号

Tel 058-215-7374 / Fax 058-296-5343

発行／2012 3月19日

「ビー・カンパニー」完成しました！



## 「つかいぼう自立支援」4月からの活動 介護職員等の医療的ケア(痰吸引と経管栄養)実施と相談支援事業

この四月を目指して「つかいぼう自立支援」の場は今準備作業に追われています。一つは、4月から一定の条件の元で介護職員等はたんの吸引と経管栄養の医療的ケアが実施できるようになった事です。つかいぼうのように特定の方(利用者)の所に行って介護をするような事業所のヘルパーは特定の者を対象にする講義や実地研修を受けます。入所施設の利用者を対象として医療的ケアを行う予定のヘルパーは不特定の者を対象とした研修を受けます。また特定の者に対して一定の研修を受けずで医療的ケアを行っているヘルパーは研修を受けなくても「みなし」として期間限定ですが申請のみで実施できます。

つかいぼうのヘルパー事業所の利用者には医療的ケアの必要な方もおられ、これまでもヘルパーは厚労省の通知に基づく一定の研修を受け吸引を実施しているので「みなし」の対象となるヘルパーと新たに経管栄養の研修の必要なヘルパーがいます。ヘルパーの研修や申請はほぼ終わりこれから登録特定行為事業者(介護職員等が吸引や経管栄養を実施とする事業所)の登録申請の手続きをします。どのように作ればいいのかわからない書類もあり苦戦中です。

10年以上前、在宅でのヘルパーの痰吸引等全く考えられなかったような時代と比べると隔世の感もありますが、実際ヘルパーが何の不安も考えずに実施できる体制があるとはまだ言い難く、医療的ケアを受けて自分の選んだ場所で暮らすことが誰もが可能かと言えば社会資源が乏しすぎて全くそうとは言えない状況です。今年から始まるこの制度も今一つ動きも悪くやっとなんか踏み出せるのかな?といったところだと思いますが、大切に育てていきたいと思っています。

医療的ケアが必要でも地域で生きる事、生きること自体をあきらめない事を互いに頑張りましょう。

もう一つの準備は相談支援です。相談支援事業の重要性が増してきています。4月から、「特定相談支援事業」と「一般相談支援事業(地域移行・地域定着)」に分かれます。「特定相談支援事業者」は支給決定の前に利用者のニーズを基にしたサービス利用計画を作成しそれが支給決定の参考にされる重要な役割を行ないます。またこれまで計画の作成の対象者は一部の人に限定していましたがこれから3年間で介護給付と訓練等給付を受ける人すべてに拡大されていきます。

「一般相談支援事業」では施設や病院、家族から地域生活の準備のための外出の同行支援や入居支援等を行う「地域移行」や24時間の相談支援体制等を行う「地域定着」を実施します。これまで自立センターなどが行ってきたことが不十分ながらやっとなんか認められた感があります。

使える制度はどんどん利用し、必要なサービスは作りながら、みんなで一緒に地域で暮らしましょう!!!

# 3・11 鎮魂・復興への願い・支援・脱原発

□東日本大震災から一年を迎えた3月11日、金公園から出発した脱原発を求めるパレードに参加しました。参加者約800人で「命を守ろう、子供を守ろう、原発いらぬい」など声を上げながら岐阜駅、ドンキホーテ前を回りました。出発前の金公園では福井県的美浜原発で事故が起きた場合の放射能の広がりを調べるために3日に行われた風船飛ばしの結果報告と放射能から逃れるために福島から岐阜に移ってこられた方からのアピールがありました。風船は11日現在で岐阜市、垂井町、可児市、遠くは愛知県の高浜市にも届いたとの報告があったそうです。

また福島から来られた方は、「いまだに外に布団や洗濯物が干せない、外の石や砂に手を触れてはいけない、マスク無しで外出はできない、子供たちは外で遊べない等」の状態であることを話されました。

風船実験で風の流れがわかり、美浜で事故が起きた場合には他人ごとではなくなるかもということですが、それより恐ろしいのは、飛散した放射能がどれだけの影響をどのくらいの期間及ぼすのかということがはっきりしない(させない)事ではないでしょうか。がれきの処理にしてもその影響がわからないので受け入れの要請に答えられないのだと思うのですが。福島の方が話された状況下で生きることがどういうことなのか今だ明確にされず個人の判断や力に任されていることは異常事態だと思わずにはいられません。

パレードは初めての体験でした。社会に対する意志表明と要求行動であり自分に対する意志確認か…、これでは何も変わらない、いやまずはここから…、いやもっと具体的な行動をし続けないと事故前と結局は何一つ変わらない・変えられないのでは…と個人的には思いながら進みましたが、前回よりは人も増えたようで積み重ね一人一人が広めていくことがとても大切だと思いました。とにかく自分に出来る実効性のあることを一つでも多くしたいと思います。

□この日は夜には「こよみのよぶね」というイベントも長良川河畔で行われました。ヴァリエーションの何人かのメンバーも見に出かけましたが、「3.11」の数字をかたどった行燈を載せた屋形船が川を下る祈念行事で市民も行燈に復興への願いを書き河岸に並べるのです。このイベントにはヴァリエーションのキャンドルを使っていただきました。このような大切な催し物に使っていただけるのはとてもうれしいですが、比較に

ならない辛さがあり、いつか本当に復興を祝うことのキャンドルが作れたらと心から祈ります。

□また毎月11日のマーサ21でのイエローレシートキャンペーンはボックスに入れたレシートの売上の一部が登録された団体への寄付金になるのですが、この日は東北地方への寄付となりました。つかいぼうも登録しており毎回11日には会場で当団体への協力を呼びかけていますが、今回は被災された方たちへの協力を呼びかけました。

(吉田)

◆お願い◆

「さよなら原発1000万人アクション -脱原発、持続可能で平和な社会をめざして」脱原発を実現し自然エネルギー中心の社会を求める全国署名を5月末まで行っています。つかいぼうでも行っていますのでご協力お願いします。

## 編集後記

「ビー・カンパニー」ついに、完成しました。様々な事が重なり普通は6か月近くかかる工期を休み返上と技術で4ヶ月で作らせてくださいました安田工業株式会社さん、村山建築設計事務所さんはじめ関わって下さったすべての皆様ありがとうございました。予想出来なかったくらい私たちが働く場とは思えないしゃれた建物になりました。建物に負けないように一生懸命働くと共に地域の出会いとつながりの場になるよう頑張ります。

また今回思い切って太陽光発電を設置しました。建物の明かりをすべてつけてもまだ余裕で静かに売電しています。もちろん脱原発！と当作業所のためだけでなく地域の福祉避難所として活用できればとの思いです。蓄電の設備はないので完ぺきではありませんが、いずれ人口呼吸器の仲間がとりあえず安心して避難できる場所を目指せたらと(今のところ、個人的に)思っています。よろしくお願い致します。